地域別経済動向調査　～地域金融機関から見た地域景況感～

＜お天気マークの見方＞

非常に好調　好調　やや好調　普通　やや低調　低調　非常に低調

＜方向感の見方＞

上昇傾向　変わらない　下降傾向

地域	機関名	現在の景況感（10-12月期）				次期見通し（1－3月期）	
		総合	生産動向	消費動向	判断理由	方向感	判断理由
道南	渡島 信用金庫				生産動向については、観光関連等、一部業種において売上は堅調に推移するも、漁業では水揚高が低調であり、原材料や燃料費の高騰から収益性は低調に推移しており、先行きの不透明感からも「やや低調」と判断した。 消費動向についても、観光関連の業種に持ち直しの期待感はあるものの、物価高の影響もあり、早期に景況が回復するものではないと思われることから「やや低調」と判断した。		ロシア・ウクライナ情勢や原材料・燃料費の高騰、物価高等、景況感が上昇傾向にあると判断する材料は乏しいものと思われ、各種業種において閑散期に入ることからも、生産・消費動向ともに「変わらない」と判断した。
	道南うみ街 信用金庫				今期の業況判断DIは、売上額の動きで減少を示し、収益の動きでは増加を示しているが、共に今期の予想よりは大幅な良化となった。インバウンドの回復傾向により概況では良化となり、仕入価格上昇分の販売価格への転嫁により収益改善が図られているが、値上げによる買い控えにより消費の伸び悩みが見られる。総合的には、人手不足感も顕著となっており、業況の改善には当面時間を要するものと見受けられる事から、前期と同様に「やや低調」と判断した。		次期の景況見通しは、概況、売上額の動き、収益の動き全てにおいて減少を予想しているが、仕入価格の上昇・人手不足について緩和予想となっており、インバウンドの回復を受け景気見通しは「変わらない」と判断した。
道央	北海道 信用金庫				今期の景気動向調査では、製造業で「好調」、建設業・不動産業で「やや好調」となるが、卸売業・小売業で「普通」、サービス業で「やや低調」となり、全体の業況判断DIが8.2となっていることから「普通」と判断した。		次期の業況見通しは、製造業・不動産業で「普通」となるが、卸売業・小売業・サービス業・建設業で「やや低調」となり、全体の業況判断DIが△1.4「やや低調」となっていることから、現在の景況感「普通」から「下降傾向」と判断した。
	空知 信用金庫				今期の業況判断指数は、△2.2と前期より4.3ポイント下降し、2期振りにマイナス圏内へ転じた。業種別に見るとサービス業、製造業の順に改善、他の6業種で悪化となった。売上額DIは6.9と前期比8.1ポイント悪化となり、不動産業で上昇、製造業・卸売業で横這い、それ以外の業種は下降となっている。収益DIは△8.0と前期比4.3ポイント下降し、改善は製造業のみで、他の業種は横這いまたは下降している。		次期の予想業況判断DIは△11.1と今期実績比8.9ポイントの下落が見込まれる。業種別では、不動産業・運輸業は横這いを見込み、それ以外の6業種は悪化を予測している。主要指標はやや悪化傾向となり、物価高・人手不足等の負の影響も加わり、先行きの不安感を反映したと思われる。
	北空知 信用金庫				当金庫の景気動向調査によると、サービス業は改善がみられるが、前期改善した建設業（土木請負）と卸・小売業（その他販売）は悪化し、製造業、建設業（建築請負）では依然と後退感が強い。また令和5年初めから続いてきた円安は米国の利下げ観測が強まっているが、依然として原材料の高騰から収益性劣化の懸念が拭えず、経済活動への積極性や活性化に至っていない。そのため総合景況感は前期調査同様の「低調」と判断した。		建設業のみ改善が見込まれる中、その他の業種は悪化又は横ばいすると見込んでいる。前期に引き続き、全体的なDIも7.8ポイント悪化する見通しであることから「下降傾向」と判断した。
	北門 信用金庫				売上額判断DIが下降したが、仕入価格判断DIもやや下降したことから収益判断DIはほぼ横ばいとなり、業況としては「普通」と判断した。 製造業で業況が改善しており、生産動向については「普通」と判断した。 消費動向については、小売業で改善、サービス業で横ばいとなっており「普通」と判断した。		売上額・収益判断DIが再びマイナス判断となり、業況は今期より悪化する見通し。生産動向は製造業で業況が悪化、消費動向については小売業・サービス業で悪化の見通し。
	伊達 信用金庫				サービス業は、年始年末に向け集客状況は順調に推移しており、今後は冬期間のインバウンドの動向により集客実績が左右されるものと推測される。製造業は原材料、光熱費など物価高騰による経営への影響は続いており、販売価格の見直し等続けている。建設業はコロナ禍の影響も落ち着き、公共、民間工事の受注量は回復傾向、不動産業も例年並みの仲介、管理料を得ており、前期と大きな変化はないことから「普通」と判断した。		新型コロナウイルス感染症は落ち着きを見せ、業況回復の兆しは見られるが、依然として原材料等の高騰による収益圧迫要因は続くとの見通しが多く、現時点では「変わらない」と判断した。
	苫小牧 信用金庫				今期の景気動向調査によると、業況判断指数は良いとする企業16.9%に対して、悪いとする企業は31.7%、DIは前期から0.6ポイント改善し△14.8。業種別に見ると建設業・運輸業・サービス業で前期比改善、製造業・卸売業・小売業は前期比後退となった。総じて売上低迷、収益悪化の状況にあり景況感の総合評価は前期同様「やや低調」、生産動向および消費動向についても前年同期比大きく後退、前期の「普通」から「やや低調」と判断した。		同調査によると、次期については良いとする企業10.2%に対して、悪いとする企業は42.8%、DIは△32.6。今期実績に比べ17.8ポイント後退の見通しとなったが、前年同期と同水準の見通しであり、前期同様「変わらない」と判断した。

地域	機関名	現在の景況感(10-12月期)				次期見通し(1－3月期)	
		総合	生産動向	消費動向	判断理由	方向感	判断理由
道央	室蘭 信用金庫				総合のDIは7となり前期より2ポイントの上昇となることから、やや好調と判断。生産動向について、製造業のみDIは下降したが建設業、卸売業ともに前期と比べ大幅に上昇したことから「好調」と判断した。消費動向についてDIは前期より下降傾向にあるが、プラス水準で推移しており「やや好調」と判断した。		景況見通しについて、卸売業以外の業種全てで悪化する見通しにあることから「下降傾向」にあると判断した。
	日高 信用金庫				今期の業況DIは△17.0と、前期比3.7ポイント下降した。DIが下降した業者が多く、消費動向については物価高騰の影響により「やや低調」と判断した。 業種別の業況判断DIは、製造業△11.4（前期0.0）、建設業△17.1（同△2.5）、卸売業△12.5（同25.0）、小売業△25.0（△16.0）、サービス業△9.9（同20.0）となっている。		次期の予想業況判断DIは△30.0と、今期実績比13.0ポイントの下降見通しにある。製造業、建設業、卸売業は季節的に稼働状況低下し、小売業、サービス業についても物価高の影響等により消費動向は弱く、ポイント対比からも「下降傾向」と判断した。
道北	旭川 信用金庫				長引いた新型コロナウイルス感染症も5類へ移行し、少しずつ以前の景況感を取り戻してきていることから、「やや好調」と判断した。多くの企業で今までよりも明るい景況感が回答された。		人の動き等以前のように戻ってきている部分も多いが、仕入価格等の上昇傾向が続くと考えられるため、景況は大きく変化しないと判断した。
	北星 信用金庫				多くの業種でコロナ禍前の水準まで売上、業況は回復してきているが、依然として物価高や燃料高の影響は続いており、総合的な景況感については前期同様、「普通」と判断した。		新型コロナウイルス感染症の影響は無く、経済活動はコロナ禍前の水準に戻ったといえるが、物価高、燃料高、人材不足等の影響は続いていくものと考えられ「変わらない」とした。
	留萌 信用金庫				景気動向調査による業況DIは、前期と比較して△18.0ポイントとやや低調であり、業種別に見ると、建設業の変化幅が4.1ポイントと概ね横ばいで、製造業が△11.4とやや低調であり、卸売・小売業が△32.7、サービス・不動産業が△22.2と低調であるが、総合的に見て前期同様「やや低調」と判断した。		景気動向調査による次期予想DIを見ると,全業種が△16.7ポイントでやや低調が予想され、業種別に見ても全業種で△3.8～△50.0ポイントの減少の予想であることから「下降傾向」と判断した。
	稚内 信用金庫				当金庫で行っている景気動向調査によると、経済活動が正常化する中、前年同期と比べて、旅館・ホテル業を除くサービス業と運輸業で売上額DI、収益DIの改善が示された一方、食品部門を除く製造業と自動車販売部門を除いた卸・小売業で低調な状況。以上の結果から、総合を「やや低調」、生産動向を「低調」、消費動向を「やや低調」と判断した。		同調査によると、業況DI△32.1、受注額DI△30.9、売上額DI△31.6、収益DI△28.1で、閑散期となる中、物価上昇や原油高の影響から低調な見通しだった前年同期の調査時よりはやや改善を示したものの全項目いずれも低調な見通しとなっている。以上より「下降傾向」と判断した。
オホーツク	網走 信用金庫				当金庫業況調査において、製造業のDIが0となったが、建設業のDIが△12.0であり、生産動向を「やや低調」と判断した。消費動向においては卸売・小売業のDIがマイナスに転じたが、サービス業のDIがプラスとなり「普通」と判断した。 全業種においてはDIが△4.0となり、前期の「やや低調」から「普通」と判断した。		当金庫業況調査の次期予想において、全業種のDIが△19.4とDIが悪化しており、景況見通しを「下降傾向」と判断した。
	遠軽 信用金庫				遠軽地方における景気動向調査の結果、全業種の業況DIは△11.8となり、前期調査△8.2からやや悪化する結果となった。前期同様、人材不足や物価高騰による影響等により、多くの事業先で厳しい状況が続いていることから、現在の景況感は前期調査時同様の「やや低調」と判断した。生産動向・消費動向については、サービス業・不動産業で売上DI・収益DIともに前期から改善が図られたものの、製造業、卸売業・小売業及び建設業で売上DI・収益DIは悪化する結果となり、生産動向及び消費動向は「やや低調」と判断した。		次期の景気見通しについては、多くの事業先で閑散期となり、調査を行った全ての業種において、売上DI・収益DIは悪化することが予想されており、「下降傾向」と判断した。
	北見 信用金庫 (北見地区)				当金庫の景気動向調査による北見地区の景況は、前年同期と比較したDIは、売上高が△14と16ポイントの悪化、収益も△18と7ポイントの悪化となっている。		今期とと比較した次期の見通しでは、売上DIは△28、収益DIは△31と悪化の見通しとなっている。
	北見 信用金庫 (紋別地区)				基幹産業である漁業が最盛期なことから、水産関連会社を中心に生産動向活況となっている。特に主力であるホタテ漁が好漁であり、秋サケ漁についても前年に比べ減少するが一昨年の実績を上回っており生産動向については「好調」とした。消費動向については地域クーポン券の発行等上向きな状況であるがコロナ禍前の回復はないことから「普通」とし、総合的に「やや好調」とした。		流氷シーズンによる観光客増加が期待されるものの、水産関連の会社を中心に市内多数の業者が閑散期に入ることから、全体として景況見通しを「下降傾向」と判断した。

地域	機関名	現在の景況感（10-12月期）				次期見通し（1－3月期）	
		総合	生産動向	消費動向	判断理由	方向感	判断理由
十勝	帯広 信用金庫				当金庫が実施した地域企業景気動向調査の結果、地域企業のDIが前期比悪化し△20となったことから「やや低調」と判断した。消費面は、小売業の業況判断DIが前期比悪化し△16 となったことから「やや低調」と判断した。生産面は、生乳生産量、秋サケ定置網漁の漁獲量等が前年比減少したことから「やや低調」と判断した。		同調査の結果、地域企業の次期DI見通しが△23と今期とほぼ同水準であることから「変わらない」と判断した。
釧路	釧路 信用金庫				全体として持ち直しの動きが続いているが、人手不足の影響で営業時間・日数を削減する等の事業者もみられた。また、価格転嫁が進んでいない事業者も依然としていることから、持ち直しの動きはみられるものの、前期同様「普通」と判断した。		当面は人手不足の影響や物価高騰の影響が続くことが予想されることから「変わらない」と判断している。
根室	大地みらい 信用金庫				新型コロナウィルス感染症の5類移行後は観光客の入込回復、行動自粛の緩和により消費回復につながっているが、物価高騰のなかで実質的賃金が変わっておらず消費動向について好調とは言い難い。 また当地域は1次産業主体であり、生産者においては漁業も酪農も厳しい経営環境が継続。ALPS処理水の海洋放出に伴う風評被害、酪農では資材や飼料価格の高騰により深刻な影響が出ている。 総合的には消費動向の回復よりも、生産動向の落ち込みが上回るため「やや低調」と判断した。		生産動向がしばらく厳しい状況となる見通しから、今期の景況感と「変わらない」と判断した。